

令和 2 年度における業務実績報告書

抜 粋

令和 3 年 6 月

公立大学法人和歌山県立医科大学

目 次

- 法人の自己評価に対し「3名」の委員が異なる評価をつけた項目（ 1項目）
..... P 1
- 法人の自己評価に対し「2名」の委員が異なる評価をつけた項目（ 5項目）
..... P 2
- 法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（12項目）
..... P 4

○ 法人の自己評価に対し「3名」の委員が異なる評価をつけた項目（1項目）

※令和2事業年度 業務実績報告書68ページ

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

4 地域の活性化に関する目標を達成するための措置	自己評価	【S-A-B-③-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-1) (III-3) (IV-)】
	委員会評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価	
ア	<p>【研究成果の情報提供】</p> <p>県民及び地域医療関係者に対して継続的に医学、薬学及び保健看護学の最新の研究成果等の情報を提供する。</p>	<p>県民向けの「最新の医学・医療カンファレンス」及び地域医療関係者向けの「臨床・病理カンファレンス」を継続的に実施する。また、参加者の増加に向け、開催方法及び周知方法を工夫する。</p>	<p>県民向けの市民講座「最新の医学・医療カンファレンス」を新型コロナウイルス感染症のため全て中止したが過去のカンファレンスの動画を編集して和歌山県立医科大学YouTubeチャンネルに掲載した。</p> <p>また地域医療関係者向けの「臨床・病理カンファレンス」を2月にオンライン開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「臨床・病理カンファレンス」 開催数：1回 受講者数：68名 ・テーマ：「突然死を起こした血栓性血小板減少性紫斑病の一例」 <p>〈総務課〉</p>	II	III III III	

○ 法人の自己評価に対し「2名」の委員が異なる評価をつけた項目（5項目）

※令和2事業年度 業務実績報告書53～55ページ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

4 国際化に関する目標を達成するための措置	自己評価	【S-A-B- ◎ -D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-5) (III-1) (IV-)】
	委員会評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ア	【海外研修・海外留学】 助成金の支給や留学報告会の開催等により、海外研修、海外留学を促進するとともに、学生の国際コンペへの参加など研修形態の多様化の取組やアジア等への教職員の派遣を行い、教育、研究、医療の各分野における学生、教職員の資質の向上を図る。	a 新入学時の案内や留学報告会の開催等により学生の参加意欲を高めるとともに、助成金の支給や研修の実施により支援を行う。アジアでの学生国際コンペへの参加を促進し、学生の国際的な視野を広げるとともに、アジア等への教職員の派遣について検討を行う。	II	III III	
	b 若手研究者に対し、海外派遣支援を行う。	海外経験の浅い若手研究者に対し、海外の大学等における先進医療技術の見学や先進的研究活動への参加等の機会を提供するため、学内公募を行い研究活動活性化委員会の審議を経て海外派遣支援を決定した。 申請者 前期0名 後期1名(令和元年度申請者延期分) 派遣者 前期、後期とも0名 (令和2年度後期1名派遣予定であったが、コロナ禍の影響により派遣が行える状況になかったため、辞退となった。)	II	III III	

ウ	<p>【学術交流・学生交流】 海外の大学、研究所、病院等との学術交流、学生交流を推進するとともに一層の充実を図る。</p>	<p>a 従来から交流を行っている海外の大学との学術交流・学生交流を計画的に実施するとともに、欧米等の新たな大学との協定締結や和歌山大学等他大学との連携により、国際交流の裾野を広げる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の為、本年度の学術交流・学生交流は中止。協定校の山東大学附属病院の100周年記念用の祝辞と本学教員の講演ビデオを制作し送付した。 〈総務課〉 香港中文大学の看護学部生に対し、保健看護学部教員2名がZOOMにより特別講義を行った。 〈保健看護学部〉</p>	II	III	
		<p>b 若手研究者が代表者として主催する国際シンポジウム等の開催に対して支援を行う。</p>	<p>令和2年度は、次の4件の国際シンポジウム等の開催に対し助成を決定した。 ①胃がん低侵襲治療の現況と未来－国際シンポジウム in Wakayama/R3. 2. 4-5 予定/ 外科学第2講座 講師 尾島敏康/970千円 ②和歌山眼・角膜神経シンポジウム/R2. 11. 28-29 予定/ 眼科学講座 准教授 岡田由香/1,640千円 ③日仏共同糖鎖病態生理学 和歌山県立医科大学国際シンポジウム2020/R2. 6. 1-3 予定/ 生化学講座 講師 西辻和親/1,240千円 ④和歌山国際法医学シンポジウム/R2. 8. 22-23 予定/ 法医学講座 准教授 石田裕子/1,150千円 ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、①は2月末にWEB開催となり、②③④は開催不可能となった。 〈研究推進課〉</p>	II	III	
エ	<p>【国際的な医療水準向上への貢献】 海外協定校など、本学がこれまで培ってきたアジア地域での医療ネットワークを活かし、教職員の派遣により、国際的な医療水準の向上に貢献する。</p>	<p>協定大学・施設のネットワークを活かし、教職員の派遣を推進する。</p>	<p>明美ちゃん基金を通じてミャンマーでの医療活動に医師を派遣していたが、新型コロナウイルス感染症の為、派遣が出来なかった。また、ミャンマーの社会情勢から、医師研修受入も準備できなかった。 もともと国際的な医療水準向上への貢献プログラムが少ないうえに、明美ちゃん基金活動の中心的存在だった医師の退職、さらに世界状況及び大学の派遣・受入体制を鑑みても今後実施することが難しいことが予想される。 〈総務課〉</p>	II	III	

○ 法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（12項目）

※令和2事業年度 業務実績報告書13～14ページ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-Ⓐ-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-1) (III-51) (IV-)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)		年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
学部教育							
オ	【国家試験】 新卒者の国家試験合格率を向上させるため、学習支援を充実させるほか、医学部において、学生に対する卒業試験後の個別支援を行うとともに、卒業試験問題の検証・改善を図り、全国上位の合格率を目指す。	a 卒業試験と国家試験の成績の相関を分析し、FD研修会で今後の教育上の問題等を学内教員へフィードバックする。(医学部)	卒業試験の問題については、正答率、識別指数等により不適正な問題を排除した。卒業試験と国家試験の成績の相関について解析するため、国家試験の更なる成績開示を卒業生に求めた。 卒業試験と国家試験の成績結果を分析し、今年度の教育評価部会で、今後の卒業試験問題についての検討を行った。 また、国家試験前には、個別に学生と面談し、精神面でのサポートや客観的なデータに基づくアドバイスを行うなど、合格に向けてフォローを行った。		III		
		b 高い国家試験合格率を維持するため、担任及びゼミ担当教員を中心とした学習支援を行う。(保健看護学部)	看護師、保健師ともに引き続き合格率100%を目指し、学年担任及びゼミ担当教員を中心として学習支援を行った。 看護師模擬試験 4回 保健師模擬試験 3回		III	IV	
数値	新卒者の看護師国家試験合格率 100%	100%	令和2年度実績：100% (全国大学合格率97.4%) ※100% (令和元年度) 〈関連事項 オb〉		/		
	新卒者の保健師国家試験合格率 全員合格	全員合格	令和2年度実績：100% (全国大学合格率98.0%) ※100% (令和元年度) 〈関連事項 オb〉				

ク	<p>【薬学部開学】</p> <p>医療人としての使命感・倫理観を有し、幅広い専門知識と高い実践能力を備え、地域医療の向上と国際的な薬学研究に寄与できる人材を育成するため、平成33年度に薬学部を開学する。</p>	<p>令和3年度の薬学部開設に向けた手続きを遺漏なく行う。また、施設を完成させ、備品整備を行う。併せて、各種規程の整備やカリキュラム編成を行い、入学者選抜試験を実施する。</p>	<p>・ハード事業</p> <p>伏虎校舎建設はコロナ禍にあっても順調に進み当初計画どおり12月に竣工した。</p> <p>紀三井寺の次世代医療研究センター建設は9月に竣工し、10月に学内使用者向け見学会を実施した。その後、1月20日～2月末日の間で学内使用者募集を行った。</p> <p>両施設に整備する研究備品や事務什器の令和2年度調達事務は予定どおり終了した。</p> <p>・ソフト事業</p> <p>令和2年3月に文部科学省に学部の設置認可申請書を提出していたが10月23日付けで大臣の認可が決定した。これに先立ち大学設置審議会からは附帯事項なしの答申が出された。今後申請書記載の設置計画を着実に実行していくこととしている。</p> <p>各種規程の制定及び改正の協力依頼を全学的に実施するとともに、漏れのないように整理を行った。併せて、1年生の教養・専門の時間割編成や6年次までのシラバス作成、入試事務、教学システム整備など学部開学に向けた準備事務を精力的に進めた。</p> <p style="text-align: right;">〈薬学部事務室〉</p>	III	IV	
---	---	---	--	-----	----	--

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A- B -C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-1) (III-28) (IV-2)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
附属病院本院						
ク	<p>【認知症対策】 高齢者の入院時認知症スクリーニングシステムを構築するとともに、各科・各病棟の特徴に応じた対策、対応ができる体制を整備することにより、認知機能低下患者の入院環境の整備、医療安全対策及び安心な療養生活の支援を行う。 また、認知症の識別診断、治療、地域療養との連携をシームレスに行う体制を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者・認知症ケアサポートチーム」が中心となって、入院時認知症スクリーニング結果をもとに、認知症患者の治療や安全・安心な療養生活の支援を引き続き行っていく。 県民ニーズを適切に把握し市民の求めるニーズに合った講演テーマを設定し、広く広報を行うことでより多くの参加者につなげる。 地域療養との連携を円滑に行うため、認知症疾患医療センター連携協議会を定期的に開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は3診療科を追加し合計14の診療科において、65歳以上の入院予定患者を対象にした認知症スクリーニングを実施した。 認知症ケアチームにより、認知症入院患者の治療や療養生活への支援を行うため、病棟への回診を行った。 認知症・せん妄対応・予防リーダーを10診療科及び10病棟に配置することにより、入院時よりせん妄リスクを適切に評価し介入することで、安全・安心な療養生活の支援に取り組むとともに、せん妄ハイリスクケア加算を10月から取得した。 コロナ禍で各種講演会が中止になるなか、10月に「認知症の心や行動の症状(BPSD)とケア」をテーマに市民公開講座を開催し、当日は台風接近にもかかわらず、104名の参加を得ることができた。 認知症疾患医療センター連携協議会(オンライン)を3月に開催し、関係機関と情報共有を行った。 <p>(医事課)</p>	III	IV	
ケ	<p>【精神科を有する総合病院としての役割】 精神科救急において、身体疾患を合併した精神科救急患者の受入れについて、精神科救急医療機関や一般救急医療機関及び消防機関</p>	<p>救急搬送された自殺未遂者のうち、精神医学的な評価が必要とされた場合に神経精神科が救急集中治療部と連携し、再度の自殺企図の防止を支援する。 引き続き、県内の精神身体合併症治療(結核を除く。)の中心</p>	<p>救急集中治療部との連携により、自殺未遂者で精神医学的評価が必要な患者を診療、評価し再度の自殺企図防止に努めた。 和歌山県内の身体疾患を合併した精神疾患患者、脳器質性精神疾患患者を積極的に受け入れた。 また、精神疾患を合併した妊産婦に対する診療連携は当院産科との連携に加えて、平成29年12月より開始した和歌</p>	III	IV	

	<p>との連携に努める。また、精神疾患を合併した妊産婦に対する神経精神科との連携体制を強化するとともに、妊産婦の育児等の不安等に対応できる体制づくりを行う。</p>	<p>的機関として、身体疾患を合併した精神疾患患者、脳器質性の精神疾患患者を積極的に受け入れる。 また、精神疾患を合併した妊産婦に対する診療連携の強化、拡充を図り、妊産婦のメンタルヘルス対策をさらに充実させる。</p>	<p>山市の保健所、産科医療機関と連携した産後1ヶ月検診における産後うつ病スクリーニングと対象者の診療を継続するとともに、岩出市・紀の川市においても和歌山市に準じる体制を整えた。</p> <p style="text-align: right;">〈医事課〉</p>			
--	--	---	---	--	--	--

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評価	【S-A-⊖-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-1) (III-28) (IV-2)】
	委員会評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

(3) 病院運営に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																									
オ	<p>【病院収入の増収】 地域の医療機関との連携を強化し、新規患者の獲得を進めるとともに、効率的な病床運用に努めることにより、病院収入の増収を図る。</p>	<p>連携登録医との更なる病診連携の強化を図るとともに、大阪府南部の医療機関とも連携を強化し、新規患者獲得に努める。また、適切な入院期間を維持した上で病床利用率を下げることなく病床運営に努める。そのことにより一人当たりの単価を高め、増収につなげる。</p>	<p>令和3年4月現在の連携登録医は843名で、ほぼ登録医数は定着している。当院で行われている研修会などのお知らせを行い、当院の特殊な診療についても広報している。</p> <p>また、和歌山での医療連携交流会は参加者も増加傾向にあったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で和歌山および泉南泉佐野での医療連携交流会を開催することができなかった。令和元年までは大阪府南部の新規患者の獲得に努め、徐々にではあるが紹介患者数も増加していた。</p> <p>コロナ禍の中で令和2年度の病床利用率は79.2%となり前年度より下落した。しかし、適正な入院期間を維持したことで患者一人当たりの入院診療単価は88,381円となり、入院診療稼働額は、20,439百万円と前年度から364百万円増加した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>元年度 (A)</th> <th>2年度 (B)</th> <th>増減 (B-A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新外来者患者数(人)</td> <td>24,449</td> <td>20,860</td> <td>△3,589</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率(%)</td> <td>88.8</td> <td>85.5</td> <td>△3.3</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>82.5</td> <td>79.2</td> <td>△3.3</td> </tr> <tr> <td>入院診療単価(円/人日)</td> <td>83,101</td> <td>88,381</td> <td>5,280</td> </tr> <tr> <td>入院診療稼働額(百万円)</td> <td>20,075</td> <td>20,439</td> <td>364</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(患者支援センター)</p>		元年度 (A)	2年度 (B)	増減 (B-A)	新外来者患者数(人)	24,449	20,860	△3,589	病床稼働率(%)	88.8	85.5	△3.3	病床利用率(%)	82.5	79.2	△3.3	入院診療単価(円/人日)	83,101	88,381	5,280	入院診療稼働額(百万円)	20,075	20,439	364	III	IV	
	元年度 (A)	2年度 (B)	増減 (B-A)																											
新外来者患者数(人)	24,449	20,860	△3,589																											
病床稼働率(%)	88.8	85.5	△3.3																											
病床利用率(%)	82.5	79.2	△3.3																											
入院診療単価(円/人日)	83,101	88,381	5,280																											
入院診療稼働額(百万円)	20,075	20,439	364																											
カ	<p>【診療報酬制度】 医師等と情報を共有することにより、診療報酬請求内容の精度を高める。</p>	<p>a 診療報酬の査定状況について、内容を分析し、医師及び診療報酬請求事務担当者との情報を共有し、査定率の縮</p>	<p>医師等を対象とした保険診療講習会を実施し、保険診療に係る各種制度やカルテ記載について研修を行った。</p> <p>また、平成30年度に立ち上げた「査定率タスクフォース」からの5つの提言を踏まえ、審査内容の分析を行い、事務担当者の請求精度向上を図るとともに、各診療科と医事課が連</p>	III	IV																									

	また、患者支援センター及び請求事務担当等と連携し未収金の早期回収に取り組む。	減に取り組む。	携し、レセプト請求の事前チェックを強化した。特に、査定 の多い事例については、各診療科に内容を説明し、改善を求 めるとともに請求時に医師の症状詳記を添付し、レセプト請 求を行ったほか、再審査請求においては担当医師への理由書 作成を依頼するなど、査定率の縮減に積極的に取り組んだ。 〈医事課〉																	
		b 診療報酬未収金について、 職員により発生の防止や早 期回収に努めるとともに、回 収困難な未収金については、 弁護士法人に委託し、未収金 残高の減少に努める。	診療報酬未収金のうち 16,774 千円を弁護士法人へ委託 し、令和2年度中に2,559千円を回収、715千円を貸倒損失 処理した。各年度末の未収金の推移は下記のとおり。 未収金の推移 (単位：千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R2-R元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未収金</td> <td>90,513</td> <td>82,720</td> <td>85,111</td> <td>2,391</td> </tr> <tr> <td>回収金額</td> <td>40,573</td> <td>44,353</td> <td>41,904</td> <td>△2,449</td> </tr> </tbody> </table> (クレジットカード支払、自賠責保険請求、定時請求を除く) 〈医事課〉	年度	H30年度	R元年度	R2年度	R2-R元	未収金	90,513	82,720	85,111	2,391	回収金額	40,573	44,353	41,904	△2,449	II	
年度	H30年度	R元年度	R2年度	R2-R元																
未収金	90,513	82,720	85,111	2,391																
回収金額	40,573	44,353	41,904	△2,449																

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評価	【S-㊟-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-5) (IV-)】
	委員会評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
<p>エ 【県民医療枠・地域医療枠のキャリア形成】</p> <p>県民医療枠及び地域医療枠で入学した学生が地域医療の魅力や特性を理解し、地域医療に従事する医師の役割及び責任についての認識を深めるため、キャリア形成支援に資する研修等を実施する。</p> <p>また、専門医制度に基づく診療科別に作成したプログラムについて、継続的に見直しを行い、臨床研修医の県内定着に取り組む。</p>	<p>県民医療枠・地域医療枠で入学した学生に対して、卒前・卒後15年間のキャリア形成支援制度について説明を行う。また、医学部6年生に進級する際に、卒業後にキャリア形成プログラムの適用を受けることについて同意を得る。</p> <p>卒後8年目の地域医療枠医師がへき地拠点病院で勤務する際、卒後3年目～5年目の若手の地域医療枠医師の指導医という立場で医師配置を行えるように、地域医療支援センターで支援を行う。</p> <p>県民医療枠・地域医療枠における専門医取得を考慮したキャリア形成プログラム冊子を作成し、臨床研修医の県内定着に取り組む。</p>	<p>地域医療枠・県民医療枠で入学した医学部1年生に対して、地域枠の制度説明及びキャリア形成支援について個別面談を実施した。(6月25日、7月8日・9日・15日)</p> <p>同枠の医学部6年生及び卒後2年目の研修医に対して、キャリア形成に係る面談を実施した。(6月23日・24日、9月24日・28日・29日・30日、10月2日・7日・13日)</p> <p>現在、専門研修プログラムを持っている県内の医療機関において、キャリア形成プログラムを作成中であり、本学の専門研修プログラムは完成しているが、他院が未完成のため、全て完成次第、医学部6年生に対して同意を得る。</p> <p>県の医師派遣計画に基づき、卒後8年目の地域医療枠医師が、若手の地域医療枠医師を指導できるよう、本人のキャリア形成にも配慮した医師配置を行った。</p> <p>地域医療枠・県民医療枠のキャリア形成を支援し、入局先の参考とするため、院内の全診療科における地域医療枠・県民医療枠の新専門医制度での研修、学位取得を含めたローテーション例等を記載した「令和2年和歌山県立医科大学キャリア形成プログラム」を作成した。 (地域医療支援センター)</p>	III	IV	
数値	採用臨床研修医の研修修了後県内定着率 修了者数の89.1%(令和5年度)	86.3%			
		当院の初期臨床研修医2年目49名(※1名延長者除く) 内、3年目県内で後期研修43名 3年目県外で後期研修6名 県内定着率87.8%			

			(令和元年度 90.4%)	〈関連事項 エ〉		
--	--	--	---------------	----------	--	--

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-⑧-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-1) (III-12) (IV-)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
<p>オ</p> <p>【地域医療支援体制】</p> <p>県と連携して医師不足地域に県民医療枠、地域医療枠医師、育成した総合診療医等を適正配置するとともに、医師不足診療科については、県の特定診療科医師確保研修資金貸与制度の活用や県外医育大学と連携し広域的な医師派遣体制を構築する県の取組に参画することにより、医師確保に努める。</p> <p>また、県が中心となり設置する医師確保に関する協議会と協働して医師不足状況を分析し、地域毎に必要な医師数の目標値を算定するとともに、地域の拠点病院と連携した新しい医師配置システムの構築を検討し、医師の適正配置に努める。</p>	<p>和歌山県医療対策協議会に参画し、県と協働して県内の医師が不足する医療機関や診療科を把握・分析し、県民医療枠及び地域医療枠医師等を適正配置することにより、地域の医療体制の充実に取り組む。</p> <p>また、医師不足状況にある県内公的病院に対し、教員と病院の医師とを兼務した形での医師配置を行うことにより、診療及び若手医師の育成を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療学講座により指導医を配置した。 (有田市立病院 2名、国立病院機構和歌山病院 1名、新宮市立医療センター 1名 合計4名) ・地域医療枠医師・県民医療枠医師を公的医療機関の医師が不足している地域に配置した。 (地域医療枠 20名 県民医療枠 48名) ・くろしお寄附講座を活用し、新宮市立医療センターに眼科医師1名を配置した。 <p>(地域医療支援センター)</p>	III	IV	
<p>ク</p> <p>【地域医療のための教育・研修】</p> <p>地域医療を担う医師の育</p>	<p>a 地域の医療機関で勤務する若手医師等を支援するため、遠隔医療支援システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療枠医師の自主勉強会(月1回)については、県内のへき地拠点病院等で勤務している地域枠医師の新型コロナウイルス感染症等への業務対応により実施困難のため、中断している。 	II	III	

	<p>成を図るため、総合診療教育をはじめとする教育及び研修を充実させる。</p> <p>また、県内の病院の看護師育成に関する課題解決に向けた取組を実施するとともに、看護師の特定行為研修を実施し、安定的に研修修了者を輩出する。</p>	<p>を活用して勉強会等の配信を実施する。</p> <p>また、プライマリ・ケアに関するセミナーを開催し、地域の医療を担う総合診療能力を有する医師の育成に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プライマリ・ケアセミナーについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催も検討したが、実施できていない。 ・地域医療枠及び県民医療枠の学生1～6年生を対象に、令和3年2月15日（月）に、地域医療枠及び県民医療枠セミナーをオンライン開催し、宮下学長及び山野地域医療支援センター副センター長から、地域医療についてご講演いただいた。（参加者 146名） ・令和3年3月25日（木）に、地域医療マネジメント研究会学術講演会をオンライン開催し、和歌山県福祉保健部野尻技監から、「新型コロナウイルス感染症への対応で得た教訓」についてご講演いただいた。（参加者 154名） <p style="text-align: right;">（地域医療支援センター）</p>			
--	--	--	--	--	--	--

第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 財務内容の健全化に関する目標を達成するための措置	自己評価	【S- <u>㊤</u> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-1) (IV-)】
	委員会評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価							
<p>【健全な法人運営の実施】</p> <p>平成29年10月に策定した「経営改善計画」に基づき、附属病院の新外来患者数の増加、紀北分院の体制強化等による収入増加策や教職員の定数管理、医薬材料費の縮減等による経費抑制策に取り組み、将来の社会情勢の変化にも適切に対応できる強固な経営基盤を構築する。</p>	<p>平成29年度に策定した「経営改善計画」について、これまでの取組成果を検証するとともに、経営状況、社会環境の変化や今後の見通し等を踏まえ、取組内容を改めて検討し、計画の改定を行う。</p> <p>また、令和2年度における取組内容について、月次決算や年次決算見込み等を分析することにより、その効果を検証し、取組内容の改善等、着実な実行を図る。</p>	<p>前年度に引き続き、「経営改善計画」に基づく収入の増加や経費の抑制に取り組み、収支改善を図った。</p> <p>また、経営改善計画について、新たな課題への対応を行うため、計画の目標値の見直しを含め令和3年3月に改定し、令和3年度～令和5年度においても引き続き経常利益がプラスとなるような収支の見通しとなった。</p> <p>また、月次決算等を分析し、随時進捗管理を実施した。</p> <p>この結果、令和2年度の経常利益は年度計画上の目標である約1.6億円を上回る15.8億円となった。</p> <p>また、借入金残高は41.7億円、病院部門の人件費率は39.4%となり目標を上回ることができた。</p> <p>(経営企画課)</p>	III	IV								
<p>数値</p> <p>経常利益（薬学部除く） 4億円（平成30年度～令和5年度平均）</p>	1.6億円	15.8億円 (関連事項 第5 1)	/									
<p>借入金残高 70億円（令和5年度末） ※経営改善計画（平成29年10月策定）を実施しない場合、77.7億円となる見込</p>	43.5億円	<p>41.7億円 (借入金の対象となる診療備品や病院の設備更新等の金額精査や病院の大規模改修について目的積立金を財源とすることなどにより、借入金残高の抑制を図っていく)。</p> <p>借入金残高の推移 (単位：億円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>借入金残高</td> <td>61.1</td> <td>53.8</td> <td>45.6</td> <td>41.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(関連事項 第5 1)</p>					29年度	30年度	R1年度	R2年度	借入金残高	61.1
	29年度	30年度	R1年度	R2年度								
借入金残高	61.1	53.8	45.6	41.7								

	病院部門の人件費比率(人件費/経常収益) 43.6% (令和5年度) ※経営改善計画(平成29年10月策定)を実施しない場合、46.8%となる見込	42.1%	39.4%	〈関連事項 第5 1〉		
--	---	-------	-------	-------------	--	--

第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

3 経費の抑制に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <u>㊤</u> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-3) (IV-)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価	
イ	<p>【経費の抑制】 財務状況や中期的な収支推計、月次決算やそれに基づく決算見通し等を的確に分析するとともに、優先度の高い業務への重点的な経費配分や教職員の定数管理等を行うことにより、教育、研究、診療の質の向上と経費抑制の両立を図る。</p>	<p>a 予算編成にあたり「経営改善計画」にもとづく人件費を含む経費の抑制策を着実に反映するとともに、既存事業の見直しにより予算配分の重点化・効率化を図る。月次決算や中間決算、年次決算見込み等の分析により、経費抑制に係る取組の進捗管理を行う。また今後の経費抑制策について改めて検討し、「経営改善計画」の改定に反映する。</p>	<p>前年度に引き続き、「経営改善計画」に基づき医薬材料の価格交渉等による経費の抑制に取り組み、月次決算や中間決算、年次決算等の分析により、進捗管理や効果検証を行った。 また、予算編成において経費抑制に係る取組の実績や今後の計画を着実に反映し、これに基づく収支を踏まえて新規事業、既存事業の内容精査、優先順位に基づく予算配分の重点化・効率化を行った。 また、査定率の縮減や入院期間の適正化などの取組の結果、入院診療(令和元年度：204.1億円→令和2年度：208.8億円)や外来診療(令和元年度：85.5億円→令和2年度86.2億円)が増加し、経常利益は年度計画上の目標を上回った。 今後の経営改善策について、新たな課題への対応や計画の目標値の見直しを含め令和3年3月に改定して、令和3年度～令和5年度においても引き続き経常利益がプラスとなるような収支の見通しとなった。 (経営企画課)</p>	III		
	<p>b 経営管理会議等を開催し、経営状況の情報共有と分析を行い、経費の抑制を図る。(紀北分院)</p>	<p>各所属長が構成員の経営管理会議を毎月開催し、経営状況とその分析について情報共有を図り、経営改善について検討を行った。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症関連の補助金により業務損益は460,844千円となった。 (紀北分院)</p>	<p>III</p>	IV		

第6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

2 情報公開及び情報発信に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <u>㊤</u> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-2) (IV-)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
イ	<p>【情報発信】</p> <p>教育の内容、研究の成果、診療の実績等について、広報室が各所属と連携し、最新の情報をホームページに随時掲載するとともに、報道機関へも積極的に情報を提供する。また、ホームページの外国語表記化を進め国外へも情報を発信する。</p>	<p>広報室が各所属と連携し、教育、研究及び診療等の成果について、記者発表等で積極的に情報発信を行う。またホームページの外国語表記化など、国内外への情報発信の充実に努める。</p>	<p>教授、各所属等に対して、教育、研究及び診療等の成果の発信や市民公開講座の実施にかかる周知の実施の働きかけを行った。</p> <p>その結果、記者発表は10回、資料提供は14回であった。またテレビ・ラジオへの出演は80回となり、さらに新聞報道は92回となった。</p> <p>学内に対しては、毎月の所属長会及び職員メールを通じてメディアへの出演情報を提供した。</p> <p>併せて、ホームページの英語表記についても随時更新を行うことで、外国語表記化を行っている。</p> <p>〈総務課〉</p>	III	IV	
数値	<p>記者発表の実施回数</p> <p>8回/年 (令和5年度)</p>	8回/年	<p>令和2年度の実施回数は10回</p> <p>〈関連事項 イ〉</p>			